

# Eureka VIII

六年制通信 No.4 令和2年5月29日(金)号

「なくてもいいもの」を大切に

君たちの姿、声が帰ってきました。嬉しい。マスクはしていますが笑顔が溢れているのがわかります。6月からは平常授業ですから、本格的に学校生活が始まります。少し体力的にきつく感じるでしょうがすぐに慣れます。君たちは若いのだから。手洗いを習慣にすることも、そして3密を避ける行動をとることも、指標は「今までよりも何度も洗う。今までよりも換気をし、密集と密接を避ける」、これに尽きます。そして、これもすぐに慣れます。君たちの知性なら大丈夫です。

今君たちは、久しぶりの授業を新鮮な気持ちで受けていることでしょう。こういう時は砂漠に水がしみこむように授業が身についていきます。まるで乾季が続いた後の雨が大地にしみこんでいくようにね。君たちにとって授業が(今だけではなく)旱天の慈雨(かんてんのじう)であり続けることを願います。

休校が長かったので、授業が大きく遅れることを心配する人もいるでしょうが、大丈夫です。今から一歩ずつ、宣長のように「倦まず怠らず」勉強すればいいのです。休校により、どれだけの授業が受けられなかったかを計算してみました。1年生は4月5月ですから一番少なくて176時間。他学年は3月4月5月ですね。2年生が224時間。3年生は200時間。4年5年6年がそれぞれ222時間、204時間、226時間。1時間を50分として計算すると1年生が8800分。他は10000分から11000分です。夏休みを短縮して授業をしますが、これが全学年6900分。これを引くと、1年生が1900分、2年生から6年生は3100分から4400分足りない計算になります。ちなみに、4400分は50分授業でいえば88回。3月から5月までおよそ90日。毎日君たちが1時間以上の勉強(課題など)をしていれば、数字の上では何も心配のいらないことがわかるでしょう。さきほど3密を避ける工夫は「今までよりも」と考えなさいと言いましたが、勉強も同じです。今までよりも集中して、今までよりも時間を使って学んでください。そうすれば、何も焦る必要はありません。

さて、コロナ禍によって私たちはよく「不要不急」という言葉を耳にするようになりました。不要不急の外出を控えて下さい、というわけです。不要不急というのは、今どうしてもそれをする必要はないという意味でしょうが、考えてみると大抵のことはこれに当てはまるように思います。外食もそうですし、テーマパーク、映画館、美術館、スポーツジムなど全ては不要不急の施設と言えます。一言でいえば私たちの日常にある「娯楽施設」ですね。テレビの世界もそうです。新しいドラマの撮影ができないらしいですが、私たちにとってテレビの中の娯楽も不要不急のものだと言われれば、その

通りでしょう。むしろコロナ禍は、私たちの日常には如何に多くの娯楽があったかを教えてくれたのかもしれませんが。今まで如何に幸せな日々を送っていたかということを感じさせられたわけですね。

今私たちは「なくてはならないもの」と「なくてもいいもの」を分けて考えようとしています。しかし、区分けが行き過ぎて、日常にあふれる「なくてもいいもの」の全てが「あってはいけないもの」だと考えるのはいけないと私は思います。世の中に、私たちの日常の中に「なくてもいいもの」がたくさんあって、それを楽しむ人がいる社会は実に豊かで幸せだと思うからです。楽しみを失い、必要最小限のことだけで生きようになれば、人は必ず攻撃的になります。自分はこんなに我慢しているのにという感情が他罰的に働くからです。これも人間の弱さだね。私の最も嫌いな匿名の卑怯な犯罪も増えると思います。医療従事者に対する誹謗中傷などのニュースを見ると、恥ずかしくなりますね。私は警察官や消防隊員のように、世の中がどうあれ日々職務を果たしている人々にも深い敬意を持っています。

三重中学校のハンドブックに私は「人が大地に立つには、足を置けるだけの広さがあればいいのかもしれませんが。しかし、その周りを削り取ってしまえば、足場は途端に危うくなってしまいます。人が安心して立つには、やはり広大な大地が必要になるのです。その広大な大地は決して物理的なものではなく、君たちの精神の大きさを指しています。心を豊かにたくましく成長させる、それこそが君たちの立つ大地を大きく立派なものにしてくれるのです」と書きました。参考にしたのは『荘子』の次の部分です。「大地は果てしなく広大だが、人が利用するのは足を置くわずかな部分だけだ。けれども、足の寸法に合わせて不要な土地を削り、地の底に至るまで掘り下げていったら、人にとってその土地はやはり役に立つのだろうか」（雑篇「外物篇」第二十六より）

これは要するに「無用の用」を説いたものですが、私は教育においても君たちのような若者には「学ばなくていいもの」などないと考えています。このコロナ禍によって学ぶべき多くの事柄を「必要ないもの」として切り捨てないようにして下さいね。

### 今週のおすすめ

・東野圭吾 『クスノキの番人』（実業之日本社）

東野さんの新刊が出るたびに、よくこんなことを思いつくものだと感心しますが、今回も刺激的で楽しいストーリーでした。樹木も神木と呼ばれるくらい長く生きると何か特殊な能力を持ちそうな気がします。このクスノキは人の「念」を受け取るのですね。メルヘンと言ってしまうでもいいかもしれませんが、いや実際にあるかもしれないという感覚がそれをためらわせます。映画にもなった『ナミヤ雑貨店の奇蹟』は完全なおとぎ話ですが、今回は、どこかにこんな木があってもおかしくないと思っています。代々このクスノキを守る使命を持つ家の物語、亡くなった人の「念」を受け取りに来る人々の物語、自分なら最後にどんな「念」を残すのだろうと考えながら楽しく読みました。皆さんもぜひ一読を。

BGMは 矢沢永吉 の *時間よ止まれ* でした…。